

吾平地区町内会連絡協議会と市長との「”本気”で語ろう会」会議録

団体名	吾平地区町内会連絡協議会
日時	令和元年11月1日（金）18時00分から19時30分まで
場所	吾平総合支所 2階 大会議室
参加者	吾平地区町内会連絡協議会 10名
	市長、吾平総合支所長、吾平総合支所産業建設課長 住民サービス課課長補佐、政策推進課長 ほか
<p>【参加者の意見・要望等】</p> <p>○各町内会の現状及び課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各町内会でイベントを開催し、評判もいいので、引き続き、交流人口の取り込みを図りたい。 ・本地域は、観光資源・文化財等が多い。市職員の知恵を借りながら、各町内会と連携し、観光ルート等を検討していけないか。 ・唐芋の病気は、大変深刻である。関係機関と連携した対応をお願いしたい。 ・農地の空き地対策に手を焼いており、荒廃が目立つ。農地の利活用について、アイデアをいただきたい。 ・活動方針を設けて町内会活動を行っている中で、町内会組織のスリム化、班の統廃合を5年スパンで考えていかなければならないと考えている。 ・地理的にも過疎・少子高齢化が急速に進んでおり、町内会の存続が難しい。耕作放棄地も多くなり、農道や田畑の周辺部も荒廃している。青壮年部で活動しているが、近い将来、難しくなってくる。 ・自主防災組織（見守り隊）で避難勧告が出された時（特に水害）の独居老人の避難方法を協議している。避難所の場所については検討、避難については訓練が必要である。 ・吾平町の中心地及び町全体の活性化をどうしていくかが課題。 ・高齢化に伴い、役員選びが大変である。町内会で行事を計画しても、参加が少ない。奉仕作業も十分に行えない。 ・寺子屋事業について、地域の子どものためにできればと考えている。 ・子育て世帯が増え、若年人口が増えている町内会では、ごみ問題が課題になっている。班（町内会）未加入者が、班のごみステーションにごみを出しているが、何か対策はないものか。 ・道路に出ている立木についての処理が問題化している。 ・吾平流域の住民の防災訓練はできないか。 ・吾平に市営住宅が300戸あるが、現在、57戸空家がある。市営住宅の空家の原因は何か。入居対策をお願いしたい。 	

- ・吾平の第2水源地（寺ヶ迫）について、今後どう考えられるか。
- ・人口減、高齢化を考えると、鹿屋市もコンパクトシティ化を考えないといけないと思うが、どう考えるか。
- ・鹿屋市の未来に向かっての柱、何を考えているのか。

【市長】

- ・これからは人口減少を前提にまちづくりをしなければならない。地域の課題は、町内会に協力をもらいながら、地域で解決していただき、難しいところを行政が担っていききたい。
- ・吾平地区は観光・文化・歴史・産業・立地とバランスがいいので、まだまだ発展していくと考えている。
- ・市民からの市道の立木問題等行政の仕事は増えるが、人的、財政的問題は限りがある。行政、市民との役割分担が必要である。
- ・町内会のイベント（運動会、敬老会、農業祭）を少し集約する必要がある。
- ・町内会未加入者のごみの出し方については、もう少し整理する必要がある。
- ・さつまいもの病気については、現在、抜本的な対策がない。市だけでは解決できない問題のため、国、県と連携していききたい。
- ・農地の利活用については、是非、総合支所と協議していただきたい。
- ・独居高齢者の避難については、ハザードマップを点検をして、個別に小さいエリアで対処しなければならないと考えている。
- ・まちづくりについては、その町にあったまちづくりをしていく必要がある。吾平の職員にも、もっと自分のふるさとに関わっていただきたい。
- ・川上樋管は、今は簡易であるが、今後、鋼管で排水する施設とする。
- ・吾平の水源地については、神野だけではいけないので、第2水源地を考えないといけない。第2水源地（寺ヶ迫）の利用を考えないといけない。
- ・鹿屋市は、多極ネットワーク型コンパクトシティを目指している。土地利用型（土地政策）である。
- ・本市の柱については、やはり農業になる。全国1,718の市町村の中の、鹿屋市は10番目の約500億円の農業生産額がある。内訳は、畜産に偏っている傾向にある。農業を守ることが、農業に関連する産業を守っていくことになる。また、鹿屋市で最終製品を生産できる様な付加価値が高めた品物を生産していくべきだ。
- ・町内会の加入率は上げるべきだが、町内会の今後の運営、有り方、役割分担について、財政的な面も含め、考えていかないといけない。
- ・市外へ進学・就職で出た子どもたちをどうにかしたい。また、鹿屋は公務員の町で、様々な公共施設が集中しているため、今後、維持しないといけない。鹿屋の発展なくして、大隅の発展はない。鹿屋が大隅の中心として、人口10万人を維持し、守っていく。